

新しい“ネットワーク生活”を見つけ出せ

最新

# インターネット技術が もたらす ライフスタイル革命

第3回

離れた場所からいろいろな機器を操作してしまう生活

インターネットにつながる端末はもはやパソコンだけではない。ハードディスクレコーダーやオーディオといったAV機器までもが徐々にネットワークにつながり始めている。では、いろいろな機器がネットワークでつながることによって何が起るのか。今回は、インターネット経由で、離れた場所からパソコンや家電などを操作する“リモートアクセス”をキーワードにインターネットで変わる生活スタイルを探してみる。

## インターネット生活研究所

この連載は、インターネットによって生活に新たな風を吹き込むことを目的としたシンクタンク「インターネット生活研究所」によって作られています。このシンクタンクの研究者は、インターネットを生活に活かしている一般の方を中心に構成され、誰でも参加可能。詳しい活動内容は [URL](http://internet.impress.co.jp/iil) <http://internet.impress.co.jp/iil>にて報告しています。

## 生活の中で使うからこそ生まれる“ リモートアクセス ”の価値

“ リモートアクセス ”が個人の生活にも近づいてきた

「あ！ ちょっとエッチなホームページを立ち上げたままだった。妻にパソコンを触られたらどうしよう……。」こんなシチュエーションに襲われたとき、あなたならどうするだろうか。もし、家でウィンドウズXP Professionalのマシンを使っていれば話は簡単だ。標準で搭載されている「リモートデスクトップ」機能を使い、会社のパソコンから家のパソコンに接続する。そうすれば家のパソコンを、目の前にあるときと同じように直接操作することができるのだ。この機能を使って家のパソコンのブラウザを閉じて、一件着落となる。

この一連の流れを支えている技術は一般的に“ リモートアクセス ”と呼ばれるものだ。これは、インターネットなどの公衆回線上で特定のプロトコルを使い、ほかのパソコンやローカルネットワーク(LAN)などにアクセスする技術で、これまでおもにインターネット経由で会社のパソコンなどにアクセスして、遠隔地でも仕事をこなすといったビジネス的用途で使われるこ

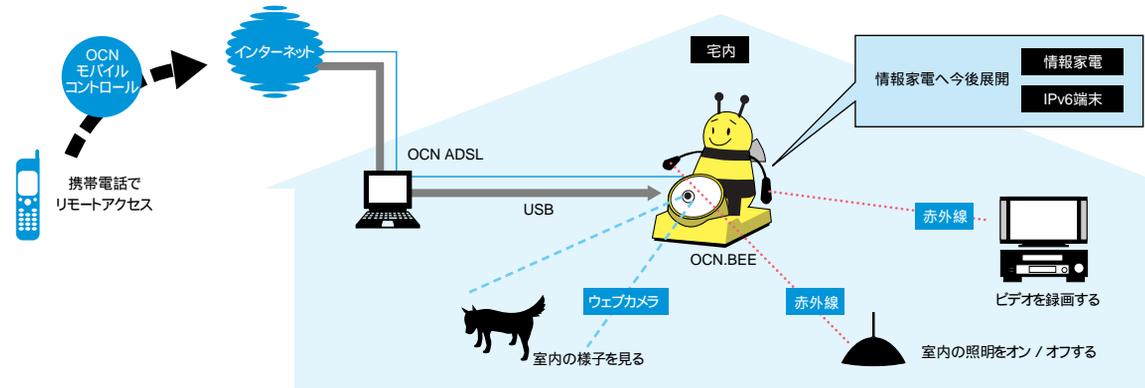
とが多かった。では、次のようなシチュエーションはどうだろうか? 「あ！ 雨が降ってるよ。洗濯物干したままなのに……。」こんな時も、たとえば会社のパソコンと物干し竿をリモートアクセス技術でつないで、洗濯物を取り込むという操作ができればこんなに便利なことはない。さすがにリモートアクセスができる物干し竿はまだないのだが、たとえばハードディスクレコーダーなどではネットワーク経由でリモートアクセス可能なものが市場に登場している。これを使えば、会社で「あ！ 好きな番組を録画し忘れた」という場合に、パソコンからハードディスクレコーダーにリモートアクセスし、録画予約もできてしまうのだ。ほかに、実験ベースながら遠隔地のパソコンから庫内温度を調整できる冷蔵庫なども、各家電メーカーが発表している。

これら動きを見てみると、リモートアクセスという特殊なビジネス向け技術が、今後個人の生活レベルにも定着する可能性があることがわかる。このまま技術が発展していけば、リモートアクセスで洗濯物を取り込める物干し竿もあながち夢の製品ではないとも言えるのだ。

コンシューマー向けサービスでも注目されるリモートアクセス

もう一つ、リモートアクセスという技術が個人ユースのレベルで実用化していることを示す例がある。それが、NTTコミュニケーションズが打ち出しているコンシューマー向けサービスのコンセプト「CoDen(個電)」だ。このサービスコンセプトはコンシューマー向けにもかかわらず、iモード対応の携帯電話からパソコンにリモートアクセスして、パソコンに接続された端末をコントロールできる「OCNモバイルコントロール」サービスを提供しているのだ。現在NTTコミュニケーションズは「OCN.BEE」という赤外線リモコンとUSBカメラの付いた「蜂型」のデバイスを提供して、端末をパソコンにつなぐことで携帯電話からUSBカメラを操作して室内の様子を見たり、赤外線リモコンで、対応した照明やビデオデッキなどの家電を操作したりといったサービスを「OCNモバイルコントロール」の一環として提供している。ただし「OCN.BEE」は「OCNモバイルコントロール」を使ったサービスのほんの一

NTTコミュニケーションズが提案するリモートアクセスサービス



「OCNモバイルコントロール」と「OCN.BEE」を組み合わせることで上の図のようなことが可能になる。携帯電話からパソコン経由で「OCN.BEE」にリモートアクセスして、コントロールするのだ。URL [http://www.ntt.com/shop/service/ocn\\_bee/](http://www.ntt.com/shop/service/ocn_bee/)

部にしか過ぎない。今後は、さらに高度に家電をコントロールできるようなサービスを「OCNモバイルコントロール」のサービスとして提供していく予定だ。このサービスが始まれば、これまでビジネス中心に展開されていたリモートアクセスという技術が、ますますインターネットを利用する“個人”にとって身近なものになるだろう。

リモートアクセス技術を使って何をするかが重要

先に挙げたようにリモートアクセス技術を使えば出先からビデオの予約や照明のオン/オフができるのだが、もしかしたら、この程度ではこのコーナーのテーマである「ライフスタイル革命」には程遠いと思う人もいるかもしれない。

では、次の例ではいかがだろうか？ ある日突然プリンターの調子がおかしくなった。これまでならメーカーのサポートセンターに電話をし、数日後にメーカーの担当者が修理にやってくるというのが常識で、それまでの間プリンターは使えないということになる。しかし、インターネットにつな

がったプリンターならば、自身で故障を感じてインターネット経由でメーカーに「故障しましたよ」とレポートする。そのレポートを受けたメーカーは、リモートアクセス技術を使ってプリンターにアクセスし、プリンターのメンテナンスを行うということも可能になる。ほかにも、電子介護や電子健康管理などの機器に医師が常にアクセスしておき、寝たきりの老人のバイタルサインを遠隔地からモニターして機器を動かす、すばやく健康管理を行うといったこともリモートアクセス技術を使えば可能になるのだ。

もちろん、こういった高度なリモートアクセスが一般的になるにはインターネットの基盤となっているIPプロトコルが、次世代バージョンの「IPv6」に移行するなど、さらなるインターネットの進化が必要だ。しかし、すでにIPv6ネットワークの商用サービスも始まっていて、技術面の条件が整うタイミングはすぐそこまで来ている。また、直接家電などをインターネットにつなぐと、最近猛威をふるっている「MSプラスト」などのコンピューターウイルスの影響が心配だという人もいるだろうが、IPv6な



OCNをはじめ多くのプロバイダーがIPv6サービスを開始している。IPv6ネットワークでは、ほぼ無限のIPアドレスが提供されるので、パソコンだけでなく家電にも固有のIPアドレスを付与できるようになる。固有のアドレスを家電が持つようになれば、現在より高度な操作がリモートアクセスでも可能になるのだ。

らば標準でIPsecによるセキュリティー機能を搭載しているので、現状よりも高度なセキュリティーを実現できるというのもポイントだ。

あとは、この技術をどのように使うかといったアイデアがそろえば、インターネットはライフスタイルに大きな変化を起こしてくれる。すべての機器がネットワークにつながり、しかも遠隔地から操作できる世界。あなたならここでどんなことをしたいのか、じっくりと考えてみてもらいたい。

## 私なら“ リモートアクセス技術 ”をこう使う

自分のベースの音をギター担当に無理やり聞かせる  
会社員兼ベーシスト 大狼澄子さんの場合

「道路沿いのアパートの1階で、家を空けていることも多いし、オートロックもない。いつ泥棒が入ってもおかしくないんですよ、ココ」というのは某デザイン会社に勤めながら週末はガレージロックバンドのベーシストとして活躍する大狼澄子さん。今回は、そんな彼女に記事の中でも紹介した「OCN.BEE」を使ってもらい、リモートアクセス生活を体験してもらった。

「やっぱり、これは泥棒監視用に使いたいですね。もちろんカメラだけでホーム

セキュリティーなんてことは考えていないけど、盗まれたものを取り返すためにも、せめて泥棒の顔だけは見ておきたい。そんなに高価なものを持ってはいないんですけど、子供のようにかわいいベースだけはなんとか守り抜きたいんです。思わずiモードで10分置きにベースの様子をチェックしていましたね。大狼さんの持っているベースはDAN ELECTROとVOXというブランドの2本で、高価ではないものの、探すのが大変なもの



ベーシストの大狼さんは、仕事用のウィンドウズとプライベート用のマックの2台を使いこなしている。「家ではマックの方をよく使うので、OCN.BEEもマック版を早く出してほしい」とのことだ。

だそうだ。

「あと、BEEを使うとしたら今いちばん気に入っている植物ブラックキャットのチェックですね。この木はかなり枯れやすく、なかなか世話が面倒。旅行に行くときなんかはどうなっているか心配なので、携帯電話で様子が見られるといい。ついでにBEEがリモートコントロールで水をあげてくれたりするといいんですけど……」

では、「OCN.BEE」以上に高度なりリモートアクセスが実現したら大狼さんはどんなことをするのだろうか？

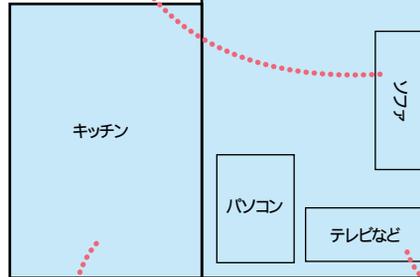
「パソコンだけでなく、家電もつながって、外から操作したりできるんですよ。だったらギターの子のオーディオにアクセスして、デモテープをガンガン聴かせますね。彼、あんまり練習しないから、とりあえず音は聴かせておきますね。カメラで練習しているかどうかをチェックできたりするととってもいいですね。」

リモートアクセスで友人に強制的にギターを練習させる。音楽とベースを愛する女の子ならではの発想だ。

大狼さんはここで「OCN.BEE」を使った！



愛するベースはソファの前に鎮座。これをテレビ台の上から「OCN.BEE」が見張っているのだ。



キッチンに置いてあるブラックキャットをカメラでチェックできるようにすると……USBケーブルのながさではこれが限界。



エアコンまで赤外線が届くのかどうか心配になり思わずBEEを近づける大狼さん。家に居るのに、つつい携帯でBEEを操作してエアコンのスイッチをいれてしまう。

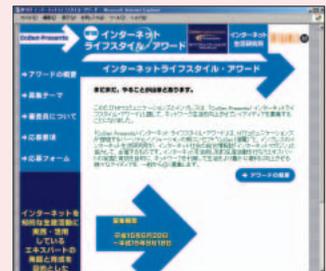


ベースを監視するために、おもちゃで溢れんばかりのテレビ台の上に「OCN.BEE」を設置すると……妙になじんでしまった。

まだまだ、やることはまほほある

リモートアクセスという技術が発展することで、インターネット生活に新たな価値が現れることはわかっただろうか。ただし、この価値はただリモートアクセスという技術を利用しただけでは生まれてこない。技術を使って何をつなぎ、どう操作するのか。たとえばそれが医療機器ならば、遠く離れた場所にいる人を、まるでその場にいるかのように診療できるようになり、我々の生活に大きな変化をもたらしてくれるだろう。これは技術のうえに、“遠隔医療に使う”というアイデアをかぶせたものだ。現在、さまざまな人が「これこそ革命を起こす料理方法だ」というアイデアを出している。インターネット生活研究所のホームページに掲載された「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」では、ネットワーク生活を向上させていく、その料理方法が多くの人から寄せられた。8月18日で第1回のアイデア

募集は終了したが、今後は、このアイデアをインターネット研究所で吟味し、優秀なものには表彰、また実際にビジネスに展開していく予定だ。技術という素材は整った。あとは、その素材をどう料理して、ライフスタイルやワークスタイルに革命を起こすかだ。今後、どのようなアイデアが“革命”を起こすのか、誌面でもお伝えしていく。



「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」  
URL <http://internet.impress.co.jp/iii/award/>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)